

日本フィル&サントリーホール

とっておき
アフタヌーン

2021~22
シーズン
Vol.17

2021.9.27(月)

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA & SUNTORY HALL

MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS

“Totteoki Afternoon” Vol. 17

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



創立指揮者 渡邊 暁雄

35th



SUNTORY HALL
夢を奏でる場所
The Home of Applause

日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン Vol. 17

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
&
SUNTORY HALL
MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS
“Totteeki Afternoon” Vol. 17

2021年9月27日(月) 14:00開演
サントリーホール 大ホール

Monday, September 27, 2021 at 14:00
Suntory Hall, Main Hall

指揮・お話: 田中祐子
Yuko Tanaka, Conductor & MC

ピアノ: 福間洸太郎
Kotaro Fukuma, Piano

ナレーター: 森田順平
Junpei Morita, Narrator

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

コンサートマスター: 扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]
Yasutomo Ogitani, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: 菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]
Tomoya Kikuchi, JPO Solo Violoncello

[主 催]

日本フィルハーモニー交響楽団 / サントリーホール

[協 力]

The Okura Tokyo / ANAインターコンチネンタルホテル東京

ラフマニノフ: パガニーニの主題による狂詩曲 作品43
Sergei Rachmaninoff: Rhapsody on a Theme of Paganini, Op. 43

ピアノ: 福間洸太郎
Kotaro Fukuma, Piano

— 休憩 —
intermission

グリーク: 組曲『ペール・ギュント』
第1番 作品46 / 第2番 作品55 (ナレーション付き)
Edvard Grieg: Peer Gynt Suite No. 1, Op. 46 / No. 2, Op. 55 (with narration)

「イングリッドの嘆き」(組曲第2番第1曲)

“Ingrid’s Lament”

「山の魔王の宮殿にて」(組曲第1番第4曲)

“In the Hall of the Mountain King”

「オーゼの死」(組曲第1番第2曲)

“The Death of Åse”

「朝」(組曲第1番第1曲)

“Morning Mood”

「アラビアの踊り / アニトラの踊り」(組曲第2番第2曲 / 第1番第3曲)

“Arabian Dance / Anitra’s Dance”

「ソルヴェイグの歌」(組曲第2番第4曲)

“Solveig’s Song”

「ペール・ギュントの帰郷」(組曲第2番第3曲)

“Peer Gynt’s Homecoming”

ナレーター: 森田順平
Junpei Morita, Narrator

◆マスクを着用されていない方のご入場はお断りしております。ご鑑賞中も含め、館内では常時マスクをご着用ください。◆館内でのお客様同士の会話、演奏に対するブラボーなどの掛け声はお控えください。◆こまめな手洗い、手指消毒、「咳エチケット」の励行をお願いいたします。◆出演者へ花束、プレゼントなどを直接お渡しすることや、楽屋入り待ち、出待ちなどはお断りしております。◆時差退場へのご協力をお願いいたします。



©sajihideyasu

指揮・お話: **田中祐子**
Yuko Tanaka, Conductor & MC

東京藝術大学大学院指揮科修士課程首席修了。パリ在住。東京国際コンクール〈指揮〉入選、ブザンソン国際指揮者コンクールのセミファイナリスト。2012年渡独。13年クロアチア国立歌劇場リエカ管弦楽団に招かれ海外デビュー。N響、日本フィルをはじめ全国各地のオーケストラと共演を重ねる。15～17年シーズンNHK交響楽団首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィ公式アシスタント。18年4月～20年8月オーケストラ・アンサンブル金沢指揮者。平成30年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。パリ・エコールノルマル音楽院の指揮科・高等ディプロム課程にてドミニク・ルイス、ジュリアン・マスモンデに師事しさらなる研鑽を続けている。20/21年度ローム ミュージック ファンデーション奨学生。



©Marc Bouhiron

ピアノ: **福間洸太郎**
Kotaro Fukuma, Piano

パリ国立高等音楽院、ベルリン芸術大学で学ぶ。20歳でクリーヴランド国際コンクール優勝(日本人初)およびショパン賞受賞。これまでにカーネギーホール、リンカーンセンター、ウィグモアホール、サントリーホールでリサイタルを行うほか、クリーヴランド管、イスラエル・フィル、NHK交響楽団など国内外の著名オーケストラとの共演も多数。2016年7月にはネルソン・フレイレの代役として急遽、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団定期演奏会において、トゥガン・ソヒエフの指揮でブラームスのピアノ協奏曲第2番を演奏し喝采を浴びた。CDは『バッハ・ピアノ・トランスクリプションズ』(ナクソス・ジャパン)など、17枚をリリース。現在ベルリン在住。

オフィシャル・サイト <http://www.kotarofukuma.com/>



ナレーター: **森田順平**
Junpei Morita, Narrator

1954年、京都生まれの北九州育ち。日本大学芸術学部演劇学科卒業と同時に文学座に入り、77年、故 杉村春子の息子役で初舞台。同年NHK大河ドラマ「花神」の沖田総司役でTVデビュー。その後も数多くの舞台やTVドラマ、映画に出演。代表作は「3年B組金八先生」や「半沢直樹」など。94年に文学座退座後は声優としてもその活躍の場を広げ、海外映画の吹替ではヒュー・グラントやコリン・ファースの声を担当している。またアニメでも「クレヨンしんちゃん」の園長先生を演じ、その他ナレーションやゲームなども数多く手がけている。最近では後進の指導にも力を入れており、現在、洗足学園音楽大学声優アニメソングコース客員教授。



©堀田力丸

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務める。創立60年の歴史と伝統を守りつつ、「音楽を通して文化を発信」という信条に基づき、「オーケストラ・コンサート」、「エデュケーション・プログラム」、「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。現在、首席指揮者にピエタリ・インキネン、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹、2021年9月より首席客演指揮者にカーチュン・ウォン、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)に広上淳一を迎え、充実した指揮者陣を中心に演奏会を行っている。11年4月より、ボランティア活動「被災地に音楽を」を開始。21年9月1日までに301公演を数え、現在も継続している。BS朝日 毎週水曜夜10:54「Welcomeクラシック」出演。オフィシャル・サイト <https://www.japanphil.or.jp/>

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 作品43

19世紀ヨーロッパ音楽は、演奏法の面でも音楽史のターニング・ポイントを迎えた。演奏家たちはよりダイナミックで華麗なスタイルの音楽で聴衆を熱狂させるようになったが、そうした時代を背景として現れたイタリアのニコロ・パガニーニ(1782～1840)は、時の寵児として華々しい活躍を見せた音楽家のひとりといえる。“ヴァイオリンの鬼才”の名をほしいままにし、数々のスキャンダルと伝説に事欠かなかったこの大スターは、作曲の面でも数多くのヴァイオリンの名作を残しているが、その中でも、無伴奏ヴァイオリンのための『24の奇想曲(カプリッチョ)』作品1の第24曲は、のちの多くの作曲家たちのインスピレーションを刺激し、その主題による数々の名作が生み出された。

ロシアではピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840～93)の築き上げたロシア・ロマンティズムが、稀代のヴィルトゥオーゾ・ピアニストにして作曲家のセルゲイ・ラフマニノフ(1873～1943)に受け継がれた。モスクワ音楽院で学び、西洋の作曲様式の中に、ロシア民謡やロシア正教会聖歌などの影響を受けたであろう甘美で息の長い壮大な旋律が盛り込まれた楽曲は、今も熱狂的に支持されている。そんなラフマニノフもパガニーニの「カプリッチョ」の主題に魅せられたひとりで、持ち前の華麗なピアノ技法を發揮し、序奏と24の変奏、コーダからなる大規模なラプソディー(狂詩曲)を作曲した。この変奏の中で、ラフマニノフはグレゴリオ聖歌「怒りの日 Dies irae」の旋律を織り込み(第7変奏、第10変奏、コーダ)、より劇的な効果を付け加えている。また、変ニ長調の第18変奏は特に有名で、映画やCMでも度々使用されている。

グリーグ：組曲『ペール・ギュント』第1番 作品46／第2番 作品55(ナレーション付き)
台本：日本フィル企画制作部

戯曲『ペール・ギュント』は、『人形の家』で知られる自然主義の劇作家ヘンrik・イブセン(1828～1906)による詩劇で、ノルウェー民話の伝説的人物ペール・ギュントの遍歴を描いたものである。エドヴァルド・グリーグ(1843～1907)は1874年、31歳のときに、イブセンよりこの詩劇の付随音楽作曲を依頼された。自分の持ち味である抒情性が演劇のためのドラマティックな要求に合わないのではないかと、一旦は依頼を受諾しかねていたグリーグだったが、民族的題材による作曲に大きな意義を感じて熱心に創作に取り組んだ。その後、この劇音楽は各4曲からなる二つの管弦楽組曲に編作された。本日は劇に沿った以下の順番で、ナレーションとともにお届けする。

「イングリッドの嘆き」(組曲第2番第1曲)

第2幕の前奏曲。元恋人イングリッドの結婚式に乱入したペールは、彼女を強奪するがすぐ見捨ててしまう。激情と悲嘆が入り混じる場面の音楽。

「山の魔王の宮殿にて」(組曲第1番第4曲)

第2幕中、トロールの住処の場面の幕開けの音楽。不気味な主題が次第にオーケストラ全体に広がり、攻撃的な頂点を築いたのち断ち切られるようにして終わる。

「オーゼの死」(組曲第1番第2曲)

第3幕最後の音楽。放蕩息子ペールを最後まで愛した母オーゼの静かな臨終の場面。

「朝」(組曲第1番第1曲)

劇音楽では第4幕の前奏曲。アフリカ、モロッコ沿岸の朝の情景で、ペールは数奇な冒険ののち人生に新たな野心を抱く。

「アラビアの踊り／アントラの踊り」(組曲第2番第2曲／第1番第3曲)

第4幕の音楽。アラビアの砂漠で踊る乙女たち。預言者として名声を得たペールの前で、ひときわ艶やかな酋長の娘アントラが官能的な踊りを披露する。

「ソルヴェイグの歌」(組曲第2番第4曲)

第4幕の音楽。ペールの帰りを待つソルヴェイグが糸を紡ぎながら歌う。信頼と愛に満ちた清らかな旋律が美しい。

「ペール・ギュントの帰郷」(組曲第2番第3曲)

第5幕冒頭の音楽。ペールは世界中を回り巨万の富を得て帰郷するが、ノルウェー間際で暴風雨に襲われる。船は沈み、彼はすべてを失う。

◆ 有料オンライン配信のお知らせ ◆

本日のコンサートのライブ配信映像を、リピート配信でご覧いただけます。
お好きな時間と場所で何度でもお楽しみください。

視聴券 ¥2,200 視聴期間 2021年10月3日(日) 23:00まで

※デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットびあ)、イープラスでの取り扱い

SNSキャンペーン

Twitterで感想を投稿された方の中から、抽選で出演者サイン入りパンフレットをプレゼント
詳しくは、とっておきアフタヌーン @totteokiafternn 公式Twitterをチェック



◆ 次回のお知らせ ◆

日本フィル&サントリーホール
とっておきアフタヌーン

Vol. 18
14:00開演

2022.2.2水 指揮：坂入健司郎 チェロ：佐藤晴真
ナビゲーター：高橋克典

チャイコフスキー：ロココ風の主題による変奏曲 長調 作品33(オリジナル版)
サン＝サーンス：『動物の謝肉祭』より「白鳥」(チェロとハープによる)
レスピーギ：交響詩『ローマの松』 ほか

S ¥5,500 A ¥4,400 B ¥3,300

日本フィル各種会員、サントリーホール・メンバーズ・クラブ
先行発売：10月14日(木)～19日(火)
一般発売：10月20日(水)～



当初出演を予定していた沖澤のどか(指揮)は、一身上の都合により出演を
辞退し、代わりに坂入健司郎を迎えます。曲目の一部に変更があり、詳細は
WEBにてご案内いたします。

坂入健司郎 ©中川幸作/佐藤晴真 ©TOMOKO HIDAKI





人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

創立指揮者 渡邊 暁雄



SUNTORY HALL
夢を奏でる場所
The Home of Applause